に墨書したものである。文字は、墨痕も鮮明で完全な状態であるが、現在のところ判読できていない。

9 関係文献

栃木市教育委員会「長原東遺跡」（栃木県教育委員会『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』一九八二年）

（木村　等）

鹿の子C遺跡の調査報告書公刊される

多数の漆紙文書がみつかって、古代史研究者の注目をあつめた鹿の子C遺跡の発掘調査報告書が、財団法人茨城県教育財団から四分冊の大部の書物として公刊された。漆紙文書については本文編と図版編の二冊に収録されている。

『鹿子C遺跡』（茨木県教育財団文化財調査報告第20集）

遺構・遺物編（上・下）・漆紙文書本文編・漆紙文書図版編

発行所　水戸市南町三丁目四番五七号　茨城県教育財団

宮城・多賀城跡

1 所在地　宮城県多賀城市市川・浮島

2 調査期間　一九八二（昭57）六月～十二月

3 発掘機関　宮城県多賀城跡調査研究所

4 調査担当者　後藤秀一ほか

5 遺跡の種類　国府跡

6 遺跡の時代　奈良～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

多賀城跡は古代陸奥国府跡であり、奈良時代には鎮守府も併置されていた。遺跡の大部分は仙台平野の東北端に位置する標高二〇～五〇mほどの小丘陵上の西端に立地しているが、外郭南辺・西辺の一部は標高約四mの沖積地にも及んでおり、特徴的な占地状況を呈している。外郭は一辺八〇〇～一〇〇〇mほどの不整方形をなし、そのほぼ中央に周囲を築地で区画した東西一〇六m南北一一六mの政庁跡がある。調査の結果、政庁跡にはⅠ～Ⅳ期の変遷が把握され、出土遺物等の検討より、各期の年代は次のように考えられている。第Ⅰ期はは多賀城の創建期で八世紀前半～八世紀中頃、第Ⅱ期は八世紀中頃～七八〇年の伊治公呰麻呂の乱による焼失まで、第Ⅲ期はその復興～八六九年の貞観の大地震による被災まで、第Ⅳ期はその